

New Crown 第17回 Lessons

Lesson 17-1 : 助動詞 will 肯定文 (一般動詞の文)

Lesson 17 では、主に助動詞の will について学んでいきます (助動詞とは can のように、動詞に様々な意味を足すことができる単語です)。will は、基本的に「～するでしょう」「～するつもり」と主に訳されます。will を使った文は、未来のことを表しているため「未来形の文」とも呼ばれたりします。

will は「一般動詞の文」と「be 動詞の文」の両方に足すことができますのですが、まずは「一般動詞の文」に足す方法を学んでいこうと思います。基本的に will の文章は、can の文章と同じ形になります。つまり、can の文を作って can を will に変えてあげれば完成となります (主語と will をつなげて“主語'll”という短縮形もよく使われる)。

【助動詞 will 肯定文 (一般動詞の文) : 基本の形】

主語 + will + 一般動詞の原形 + ~.

(「主語」は「一般動詞」するでしょう)

(「主語」は「一般動詞」するつもりです)

- <例> I will (I'll) study math with Ken. (私はケンと数学を勉強するでしょう)
She will (She'll) play the piano. (彼女はピアノを弾くつもりです)
We will (We'll) go to Tokyo next week. (私たちは来週東京に行くでしょう)

【作り方】

ステップ1: 「～でしょう」「～つもりです」の部分を「～できる (can)」に変えて英語の文章を作る。

ステップ2: can を will に変える。

<例1: 私はケンと数学を勉強するでしょう>

ステップ1: 「～でしょう」「～つもりです」の部分を「～できる (can)」に変えて英語の文章を作る。

→ 「私はケンと数学を勉強することができます」

I can study math with Ken.

ステップ2: can を will に変える。

I will study math with Ken.

<例2：彼女はピアノを弾くつもりです>

ステップ1：「～でしょう」「～つもりです」の部分を「～できる (can)」に変えて英語の文章を作る。

→「彼女はピアノを弾くことができます」

_____ She can play the piano.

ステップ2： can を will に変える。

_____ She will play the piano.

Lesson 17-2：助動詞 will 肯定文 (be 動詞の文)

ここでは、助動詞の will を be 動詞の文に足す方法を学んでいきます。これを使えば「彼女は賢いです」「彼は良いサッカー選手です」といった be 動詞の文を「彼女は賢くなるでしょう」「彼は良いサッカー選手になるでしょう」といった形にすることができます。

作り方は非常に簡単。なぜなら（一般動詞の文に will を足すとき同様）、will を be 動詞の前に足してあげれば、ほぼ完成だからです。なぜ「ほぼ」なのかと言いますと・・・実は「am / is / are」といった be 動詞を be に変える必要があるから」です。例えば、She is smart. (彼女は賢いです) という文に、will を足す場合は、She will is smart. ではなく、She will be smart. となります。

「なるほどね～。だけど、なぜ am / is / are ではなく、be が使われるの？」と思われた方。良い質問ですね～。この質問の答えは「be 動詞の原形は be だから」です (is / am / are は現在形、was / were は過去形)。can / will といった助動詞の後には「(一般) 動詞の原形」が入るというルールでしたよね？そのため、be 動詞の文では、be が使われます。

【助動詞 will 肯定文 (be 動詞の文)：基本の形】

主語 + will + be + ～.

(「主語」は「一般動詞」するでしょう)

<例> I will be (I'll be) in Osaka next month. (私は来月大阪にいるでしょう)

He will be (He'll be) a good soccer player. (彼は良いサッカー選手になるでしょう)

【作り方】

ステップ1：「～でしょう」の部分を無視し「**現在形**」の文章を作る。

ステップ2：be 動詞の部分を **will be** に変える。

<例1：私は来月大阪にいるでしょう>

ステップ1：「～でしょう」の部分を見捨て「現在形」の文章を作る。

→「私は来月大阪にいます」

I am in Osaka next month.

ステップ2：be動詞の部分を will be に変える。

I will be in Osaka next month.

<例2：彼は良いサッカー選手になるでしょう>

ステップ1：「～でしょう」の部分を見捨て「現在形」の文章を作る。

→「彼は良いサッカー選手です」

I am in Osaka next month.

ステップ2：be動詞の部分を will be に変える。

I will be in Osaka next month.

【ポイント！】

1. will be の代わりに will become を使うことができる場合も多い

become という一般動詞には「～になる」という意味があります。例えば、I want to become a doctor. で「私は医者になりたいです」という意味になります。そのため、will be の代わりに will become が使える場合もある。

<例> 彼女は良い英語の先生になるでしょう。

She will be a good English teacher.

She will become a good English teacher.

2. be動詞の文に can を足す時も can be の形になる

基本的にbe動詞の文に助動詞を足す場合、be動詞の部分は「助動詞+be」の形になります。そのため、be動詞の文にcanを足す場合は、can beの形が使われます。例えば、It is true. (それは真実です) という文章にcanを足す場合は、It can be true. (それは、真実かもしれない) <直訳：それは、真実であることができます> となります。

Lesson 17-3 : 様々なフレーズ⑳

1. 命令文, and A. = 命令文、そうすれば A。

<例> Bring your friend, and you will get a free bag.

<友だちを連れてきて、そうすれば、あなたは無料のカバンを手に入れられるでしょう>

2. at the stand = 屋台店で

<例> You can get free *chopsticks at the stands.

<あなたは、屋台店で無料の箸を手に入れることができます>

*chopstick = 1本の箸。通常2本で1組なので、chopsticks と複数形が用いられる。

[補足説明]

「屋台店で」という場合、前置詞は at が主に使われる。多くの場合、ここで登場する stand は、話し手の間では「どこの屋台店」なのか限定されていることが予想できるため（自分たちが行く予定のお祭りで出ている屋台店、など）the stand が使われる。また、たくさんの屋台店を想像している場合は、stands と複数形になる。

3. it is cold = 寒いです

<例> It is very cold in New York. <ニューヨークはとても寒いです>

[補足説明]

「天気」「気温」などを言う場合、一般的には主語に it が用いられる。そのため「ニューヨークはとても寒いです」という場合 基本的に New York is very cold. とは言わないので注意。寒暖を表す言葉には

hot (暑い) / cold (寒い) / warm (暖かい) / cool (涼しい)

などがあり、天気を表す単語には

sunny (晴れている) / cloudy (曇った) / rainy (雨降りの) /

snowy (雪の降る) / windy (風の強い)

などがある。しかし、雨 / 雪に関しては、rain (雨が降る) / snow (雪が降る) といった動詞を進行形の形にし、It is raining / snowing. (雨が降っています / 雪が降っています) と表現することも多い。

Lesson 17-4 : 助動詞 will 否定文

will の否定文は、非常に簡単。なぜなら、will の肯定文を作り、will の後に not を足せば完成だからです。ただし、will not の短縮形は won't (willn't = ×) なので注意してください。

【助動詞 will の否定文 : 基本の形】

主語 + will not (won't) + 一般動詞の原形 + 。

主語 + will not (won't) + be + 。

(「主語」は、～でしょう)

(「主語」は、～つもりです)

<例> They will not (won't) go to Hyogo. (彼らは、兵庫には行かないでしょう)

He will not (won't) be an English teacher. (彼は英語の先生にはならないつもりです)

【作り方】

ステップ 1 : will の肯定文を作る。

ステップ 2 : will の後ろに not を足す。(will not の短縮形を使う場合は won't)

<例 1 : 彼らは、兵庫には行かないでしょう>

ステップ 1 : will の肯定文を作る。→ 「彼らは、兵庫に行くでしょう」

They will go to Hyogo.

ステップ 2 : will の後ろに not を足す。(will not の短縮形を使う場合は won't)

They will not (won't) go to Hyogo.

<例 2 : 彼は英語の先生にはならないつもりです>

ステップ 1 : will の肯定文を作る。→ 「彼は英語の先生になるつもりです」

He will be an English teacher.

ステップ 2 : be 動詞の後ろに not を足す。(will not の短縮形を使う場合は won't)

He will not (won't) be an English teacher.

Lesson 17-5 : 助動詞 will 疑問文

will の疑問文も簡単です。なぜなら、肯定文を作り、will を文頭に持ってくれば完成となるからです。しかし「～ つもりですか」という意味だけでなく“Will you + 一般動詞の原形 ～?”で「～していただけますか」といったカジュアルな依頼 (Can you ~? と似たニュアンス) でも使われます。

【助動詞 will の疑問文： 基本の形】

Will + 主語 + 一般動詞の原形 + ～ ?

Will + 主語 + be + ～ ?

(「主語」は、～ つもりですか)

(「主語」は、～ でしょうか)

*ただし Will you + 一般動詞の原形 ～? は、
「～していただけますか?」といったカジュアルな依頼を表すこともできる。

- <例> Will he take that class? (彼は、その授業を取るつもりですか)
Will she be in her office? (彼女は、彼女のオフィスにいるでしょうか)
Will you do this? (これをしてくれませんか)

【作り方】

ステップ1 : will の肯定文を作る。

ステップ2 : 文の先頭に will を持ってきて、最後を ? にする。

<例1 : 彼はその授業を取るつもりですか>

ステップ1 : will の肯定文を作る。 → 「彼はその授業を取るつもりです」

_____ He will take that class.

ステップ2 : 文の先頭に will を持ってきて、最後を ? にする。

_____ Will he take that class?

<例2 : 彼女は、彼女のオフィスにいるでしょうか>

ステップ1 : will の肯定文を作る。 → 「彼女は、彼女のオフィスにいるでしょう」

_____ She will be in her office.

ステップ2 : 文の先頭に will を持ってきて、最後を ? にする。

_____ Will she be in her office?

【疑問文の答え方】

答え方は、基本的に Yes / No の 2 種類。

Yes, 代名詞 will.

No, 代名詞 will not.

*will + not の短縮形の won't を使うのが一般的。

will で聞いているので will で答える。

be 動詞などで答えないように注意。

<例> Will you come to the party?

Yes, I am. =×

<例 1> Will he take that class? (彼は、その授業を取るつもりですか)

はい → Yes, he will.

いいえ → No, he won't. (No, he will not.)

<例 2> Will she be in her office? (彼女は、彼女のオフィスにいますか)

はい → Yes, he will.

いいえ → No, he won't. (No, he will not.)

そして、will に who / what / why などの疑問詞を足す場合は、基本的に疑問詞を疑問文の前に足してあげれば完成となります。ただし「何が、～つもりですか」「誰が、～するのでしょうか」といった主語をたずねる疑問文の場合、疑問文の主語の部分がありません。

【疑問詞 + will 疑問文：基本の形】

疑問詞 + will + *主語 + 一般動詞の原形 + ~?

疑問詞 + will + *主語 + be + ~?

(*ただし、主語をたずねる疑問文の場合は「主語」の部分はなくなる)

<例> When will she come here? — She will come here at 4:00.

(彼女はいつここに来るのでしょうか。 — 彼女は4時にここに来るでしょう)

Where will you be tomorrow? — I will be in Yokohama.

(あなたは、明日はどこにいますのでしょうか。 — 私は横浜にいます)

What will *happen next? — I don't know. 【主語をたずねる疑問文】

(次に何が起きるのでしょうか。 — わかりません)

*happen は「(出来事などが) 起きる / 生じる」という一般動詞。

【作り方】

ステップ 1: 疑問詞の部分 (何、いつ、など) に同じ種類の **適当な単語** を入れて **疑問文** を作る。

(主語をたずねる疑問文の場合は、**肯定文** を作る)

ステップ 2: 入れた “**適当な単語**” を「**疑問詞**」に戻す。

(主語をたずねる疑問文の場合は、更に文の最後を ? にして完成)

ステップ 3: 疑問詞を **文頭** に持ってくる。

<例1：彼女は、いつここに来るのでしょうか>

ステップ1：疑問詞の部分（いつ）に同じ種類の適切な単語を入れて疑問文を作る。

→「彼女は、明日ここに来るのでしょうか」

Will she come here tomorrow?

ステップ2：入れた“適切な単語”を「疑問詞」に戻す。

Will she come here when?

ステップ3：疑問詞を文頭に持ってくる。

When will she come here?

<例2：あなたは、明日はどこにいますのでしょうか>

ステップ1：疑問詞の部分（どこ）に同じ種類の適切な単語を入れて疑問文を作る。

→「あなたは、明日は横浜にいますのでしょうか」

Will you be in Yokohama tomorrow?

ステップ2：入れた“適切な単語”を「疑問詞」に戻す。

Will you be where tomorrow?

ステップ3：疑問詞を文頭に持ってくる。

Where will you be tomorrow?

<例3：次に何が起きるのでしょうか> 【主語をたずねる疑問文】

ステップ1：疑問詞の部分（何）に同じ種類の適切な単語を入れて肯定文を作る。

→「次にこれが起きるでしょう」

This will happen next.

ステップ2：入れた“適切な単語”を「疑問詞」に戻し、最後を?にする。

What will happen next?